

【佳作（環境生活部長賞）】

水とともに生きる

岩沼市立岩沼中学校

二年 河崎太陽

僕は、釣りが好きで、週末によく行っていました。時には、遠い所の海にまで行き、数十匹釣ったりもしました。魚は、きれいな海にたくさんいるものです。しかし、最近は開発が進み、きれいな海が減ってきています。私は、きれいな海を守りたいと考えたとき、水の大切さについて少し考えてみたいと思ったのです。僕をはじめ、「水」の大切さについて考えたことのある人は、あまり多くはないのではないでしょうか。

まず、水という漢字の成り立ちですが、この字は水の流れを描いた象形文字です。身近なところでは水は川を流れています。実際は川以外にも、地下を流れていたりします。木などの植物にとっても水は大切なものです。

その水の使用についてですが、人間は水を私たちの飲み水や料理、洗濯、風呂、水洗トイレなどの日常生活で使います。その他にも農業や工業、水力発電などにも使い、私たちの生活に欠かせません。日本の主な家庭用水の使用割合は、四十パーセントが風呂、二十一パーセントがトイレ、十八パーセントが炊事、十五パーセントが洗濯、六パーセントがその他ということ調べてみました。二〇一八年の日本の水の使用量は、七九・三〇立方キロメートルで、世界の水使用量のランキングで十位と上位にあります。ちなみに一位は、インドで、七六一・〇〇立方キロメートルで、日本の約十倍にもなり、すごい量だと舌を巻くばかりです。

このように世界でたくさん水が使われると、水を使えることが普通になり、その大切さについて忘れてしまいます。日本では、蛇口をひねれば水が出てきますが、世界ではどうなのでしょう。実は、世界にはまだまだ

水不足の国がたくさんあります。蛇口をひねれば当たり前前に水が出てくる日本では普通を感じられても、世界ではまだそのようなことができない国もあるのです。そのような国の人たちは、必死に水を集めて生活しています。日本人にしても、水を使えることにありがたみを持って生活することがやがて大切になってくるのではないかと思います。

他にも日本では、水道水が飲むことが出来ず。これは、普通のことではありません。実は、水道水が飲める国は十五カ国だけなのです。それは、日本、アラブ首長国連邦、アイスランド、アイルランド、オーストリア、クロアチア、スウェーデン、スロベニア、ドイツ、フィンランド、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、モザンビーク、レソトの十五カ国です。水道水が飲めない国が多い理由として、主な原因は、国土の面積やコスト面などの問題からです。発展途上国では水道自体がない国も珍しくありません。そのような人たちは水をくみに長時間歩いたりして水を得ています。

このように人は水を重要とし、生活しています。もし生活の中でこのかけがえない水がなくなったらどうなるのでしょうか。私たちの生活のほとんどが、水が関係していると思います。人の体も六十パーセントが水できています。水がなければ生活していくことが厳しくなります。今、世界でも水不足が深刻になっていきます。日本でもいつ水不足になるかは、分かりません。今のうちから水を使えることに感謝し、大切に水を扱うことが未来の世界へとつながることになると僕は考えるのです。人間にとっても、植物、動物、そして水に生きる魚にとっても、地球上に生きるすべての生き物になくてはならないのが水です。僕も、大好きな釣りがいつまでもできるように、これからも水のありがたみについて積極的に考えていきたいと思っています。